

巻頭言

次号はあなたが

徳島赤十字病院副院長兼第一産婦人科部長 別宮 史朗

平成から令和への改元が昨年5月に行われ、令和初の院内雑誌が完成しました。投稿していただいたみなさま、本当にお疲れ様でした。医師だけではなく医療に携わる医療人にとって、論文作成や症例報告は学会発表と同じように避けては通れない課題であると思います。この作業の準備には多くの時間を要するとともに、多彩な思考を必要とします。自分が経験した症例を深く探ること、疑問を持ってその解答を導き出すよう自分なりの考えをまとめ上げることが本当の経験であり、何十年たっても失われない自分自身の知的医療財産となります。

また、医師の場合はどの診療科であっても専門医を取得する時や継続をするためには、症例報告や論文作成が必要です。以前は査読制のある院内雑誌でも単位取得を認められていましたが、最近では院内雑誌は不可とされることが多くなっています。院内雑誌の意義が問われる時代となってきましたが、どの雑誌に投稿するかが問題ではなくその作業を行うことに意義があります。

論文作成には一定のルールや読者に興味をもって読んでもらえるかのコツの様なものがあります。せっかく作成した論文も、読んでもらってこそ価値があります。院内雑誌の投稿は、指導医達にその手ほどきをたっぷり受けられるいい機会だと思われれます。若い世代のひとたちこそ、その手始めとして院内雑誌を有効に利用していただきたいと思います。

さあ、次号はあなたの番です。

